

下関北高等学校開校式及び平成 30 年度入学式 校長あいさつ（4月9日（月））

高き志を讃える狗留孫の峰々、歩むべき道を照らす響灘の光、本校を取り巻く恵み豊かな北浦の自然が躍動し、芽吹きの新緑に彩られた、萌えいずる新しい季節が巡ってまいりました。

本日ここに、山口県知事 村岡嗣政様をはじめ、多くの御来賓の御臨席、並びに、保護者や地域の皆様方の御列席を賜り、山口県立下関北高等学校の開校式及び平成三十年度入学式が挙行できますことは、私ども関係者一同、この上もない喜びとするところであり、感謝に堪えません。

山口県立響高等学校と豊北高等学校の歴史と伝統を受け継ぐ下関北高等学校は、昨年十一月に設置され、本日ここに、先ほど、入学を許可いたしました七十三名の新生を迎え、このような盛大な開校式を開催する運びとなりました。

開校に当たり、改めて、教職員が一丸となって、生徒はもちろんのこと、その保護者、地域の皆様の期待に応える質の高い高校教育を展開していく決意を新たにしております。

さて、新生の皆さん、入学おめでとうございます。晴れて本校の生徒となった皆さんを在校生、教職員一同、心から歓迎いたします。

今、皆さんの胸の内は、本日の入学に際し、高校生活への新たな期待や決意で、大きく高鳴っていることと思います。

言うまでもなく高等学校は、義務教育ではなく、皆さん一人ひとりが、それぞ

れの希望と決断とによって、自ら選択した人生の一步であります。この新しい学校である下関北高校の生徒として生きることを選び取った皆さんには、そのことを改めて思い起こし、それぞれの決意を新たにさせていただきたいと思います。

また、皆さんが、高校生としての第一歩を踏み出すことができたのは、皆さん一人ひとりの努力の成果であります。ひたすら皆さんの成長と幸せを願って愛情を注いでこられた御家族の方々、そして、皆さんを支えてくださった多くの方々のおかげでもあります。

このことをしっかりと心に刻み、感謝の気持ちをもって高校生活を踏み出してください。

私は今、この学び舎で過ごす皆さんの三年間の道のを想像することができます。

友と机を並べて考え、意見を交わす日々の授業。真面目でひたむきな姿勢で勉強に取り組む生徒であってほしい、常に知力を蓄え、磨く生徒であってほしいということです。

時には悔しさを味わい、それをバネに練習に励む部活動。全校が心をつなげて取り組む数々の学校行事や生徒会活動。先輩、友人とともに熱中し、さわやかな汗を流す生徒であってほしいということです。

皆さんが送る高校生活の一日一日は、同時に、下関北高校の歴史を刻む日々でもあります。みなさんの姿が、活躍が、成長が、新しい学校の新しい伝統を形づくっていくのです。新たな学校づくりのパイオニアとしての誇りをもって、これ

からの「学び」の道のりをしっかりと歩んでほしいと思います。

その道のりには、多くの喜びや感動があり、一方で、くじけそうになったり、不安に駆られたり、歩むべき道の選択に思い悩むこともあるでしょう。しかし、努力や苦勞、悲しみや喜びを積み重ねながら、粘り強くやり抜き、常により高い自己をめざそうという強い「覚悟」が、皆さんにあっては未来への扉を開き、学校にあっては、新しい歴史を刻むのです。

新しい校歌に謳う「伸びやかに 朗らかに 清らかに」成長をしていってください。

今、私の目の前には、響高校、豊北高校、下関北高校、それぞれの制服に身を包んだ、若人の姿があります。響高校、豊北高校が身に纏う制服は、それぞれの歴史であり、学校の個性であります。下関北高校生のそれは、未来です。一年後、二年後、三年後、それぞれの制服から、新たに地域人としての衣を身に纏ったとき、今日のこの三校の出会いが、地域の未来を創り出す大きな力となることを期待して、挨拶といたします。

平成三十年四月九日

山口県立下関北高等学校 校長 竹村和之